

# 五十年目の一里塚

公益財団法人三井文庫常務理事・文庫長 由井常彦

この度『三井文庫論叢』第五〇号刊行と史料公開半世紀を記念して、『三井文庫史料 私の一点』を『三井文庫論叢』別冊として刊行することにいたしました。

三井文庫の歴史は、明治三十六年（一九〇三）に発足の三井家編纂室にさかのぼり、大正七年（一九一八）以来、三井文庫を名乗ってまいりましたが、戦後には、活動休止を余儀なくされた時期があり、昭和四十年（一九六五）に、財団法人として再発足いたしました。『三井文庫論叢』は、その二年後の昭和四十二年（一九六七）三月に、研究成果発表の場として創刊されました。以後毎年一冊の刊行を続け、専任の研究員のほか外部の史料利用者による論文・研究ノート・史料紹介などの研究成果を掲載し、平成二十八年（二〇一六）に五〇号に達しました。

再発足とほぼ同時に、三井文庫では所蔵史料の公開を開始し、以後整理がついた史料から逐次公開を行って参りました（巻末の史料公開年表を参照）。戦前においては非公開であった三井文庫史料の公開開始は、日本の近世商業史料・近代経営史料の本格的公開に先鞭をつけたものといえるかと存じます。

ここにお届けする『三井文庫史料 私の一点』は、この機会に史料利用者それぞれのご経験にそくし、三井文庫史料を一点とりあげてご紹介いただくことが、五〇年の歴史をふり返ることになるのみならず広く歴史研究に裨益しうるのではないかという意図で企画いたしました。

『三井文庫論叢』の基本方針として、創刊号の「創刊の辞」には左の一節がございます。

三井文庫の包蔵する資料は古記録のみでも一〇万点に及んでおり、その内容は歴史学、経済学、会計学、社会学等々の各学問分野のみからみてもきわめて価値の高いものであり、わが国経済の発展史の具体的実証的解明にとってもきわめて重要な内容をもっている。したがって、その研究は一朝一夕をもって終わるものではなく、相期間にわたって継続されなければならないものである。しかも、この文庫の資料の価値は、少数数の専属研究員によってのみならず、一般学界ならびに社会の理解ある利用によってさらに高まるものといわなければならない。したがって、今後本誌を中心として、斯道一般識者のご協力にまつものがきわめて多いと思う。

今回『三井文庫史料 私の一点』一三〇余篇を拝読しましたところ、再発足間もない三井文庫が展望していた三井の歴史研究が、皆様のご研究によって多大の成果として結実してきたことに感慨を深くいたしました。同時に、これまで注目されてこなかった史料の持つ価値をあらためて認識したこと、さらに新たな分析視角の有用性に気づくことが多々あり、厩大な三井文庫所蔵史料の持つ広くかつ深い可能性の探求

の道においては、なお一里塚に達したのみとの感を抱いております。

今回の企画では、現在閲覧利用が可能な史料のご利用者であることを基準とし、三井文庫にお送りいただいた成果物を参照して多くの皆様にご執筆をお願いいたしましたところ、一三〇人をこえる方々からご寄稿をいただきました。何分にも、半世紀の間に三井文庫史料をご利用いただいた閲覧者の方は多数にのぼり、私どもの目が行き届かず、ご依頼すべき方を見落としているのではないかと危惧いたしております。また、成果を発表されている方の中にも、ご体調などの理由で残念ながらご執筆いただけなかった方もおられました。今後、何らかの形で増補版を編集することができればと存じております。

なお、執筆をお願いするにあたっては、三井文庫史料を一点とりあげること以外には特に制約は設けず、ご寄稿者に自由なスタイルでご執筆いただきました。ただ、史料名の表記等については三井文庫側で統一を図らせていただきました。掲載した図版の選択も、三井文庫が行いました。